

井上町長の政治姿勢と 財政運営の考えは

若月康男 議員

町長

誠心誠意努力して
行くのがつとめです



問 井上町長の政治姿勢について、町長就任から3年近くになる。他の町村と比べてどのように感じているか。

答 私は県内各地を見てきたが、本町は自然も人情も豊かであり、人材も非常に多く県内でもめづらしい。地域資源もたたら操業をはじめ多様な資源にも恵まれている。私はこの地域を次世代に引き継いでいけるように誠心誠意努力して行くのがつとめだ。

問 具体的には今後どのような施策を考えているか。

答 地域新エネルギービジョンに基づいて、再生利用エネルギー活用を進める。

(23年度事業で玉峰山荘 佐白温泉の湯を木質チップボイラーで沸かし、油類の消費をなるべく少なくする事業、その他太陽光利用等)

問 この事業はうまくゆけば他の公共施設にも利用出来ると思うが。

答 公共施設の他にも例えば農業用ハウス、シイタケ関係の各施設、今度再稼動するトマト施設等への利用も考えられます。

問 地元の木材も利用できることにより循環型の燃料供給が可能で将来期待出来るが問題は山主さんへの利益が還元出来るかどうかだ。

答 チップ工場と木材の集積場をセットで考えなければならぬ。今後森林組合等と協議して進めるが、他町村で実施している価格集積場なりチップ工場着でよりも1当たり3千円位上乗せをし6千円位にはしたい。

問 畜産振興について

私は奥出雲町から畜産をとれば水稲作等農業はダメになると考えている。この度JA雲南では肥育部門を大幅に縮小する方針

を打ち出している。雲南一市二町とJA雲南で組織する農業振興協議会での協議はどつなっているか。

答 現在のJA雲南の6施設の肥育センター(仁多横田の施設も含まれる)を利用して、子牛の生産育成肥育を一体とした新しい経営体でやっていくことを検討中である。

問 斐乃上荘の経営について。

冬期間休業するようでは益々客離れが進む。新しい方策を検討すべきだ。

答 奥出雲振興との契約がH26年3月までである。一方県道印賀―横田線の全面改良がH26年度中には完成する予定でその頃を目標に施設の改修も含め問題の解決に取り組みます。

問 財政問題について

今後の町財政は合併算定替え、人口の急激な減少もあり厳しくなるのでは。

答 藤原企画財政課長

合併算定替えとは、合併時財政的支援策として、交付税を合併前の二町分を10年間保障するもので、合併後11年目から5年間

で一町分にもどすもので本町の場合1億2千万円ずつ合計6億円程度減少します。人口一人当たりの交付税算入額は22万1千円です。5年ごとの国勢調査の数が基準になるが、急激な変動があった場合には激変緩和措置が講ぜられます。

問 昨年9月、中期財政計画を示されたが、これも国の財政事情により年ごとに変わることが予想される。今後仁多庁舎建設をはじめ大型事業が目じろおしたが。

答 中期財政計画は随時見直しをしていてH23年度の決算をまわって最新のものを示します。

財政調整基金、減債基金や特定目的基金等合併時に比べ約12億円上積みしている。町債の繰上げ償還もここ3年間で約20億円実施し、実質公債費比率、将来負担比率も改善しています。計画的な財政運営を行い町民の皆様不安を与えないよう取り組み、今後とも持続可能で安定した財政運営を行います。